

神奈川県立鎌倉養護学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和4年度 神奈川県立鎌倉養護学校第2回運営協議会		
開催日時	令和4年10月20日(木) 午前9時30分～午前11時00分		
開催場所	会議室		
出席者	委員：11名 事務局：5名		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	神奈川県立鎌倉養護学校 副校長 佐藤 浩栄 電話番号 0467-45-1951 ファックス番号 0467-43-4808		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	<p>1 学校長あいさつ</p> <p>2 各部会報告</p> <p>(1)切れ目ない支援部会報告(支援グループ長)</p> <p>部会の1回目は取り組み状況を3点行った。</p> <p>①支援の活動内容について</p> <p>相談担当、PT、STで活動を行っている(メンバーがensembleに載っています)。校内相談は担任からの相談→関係機関へつなぐことも行っている。また鎌倉養護にない職種については校外ブロックの専門職を活用している。今年度はコロナ禍の影響下でも相談件数が増えている。相談の内訳は、現地へ赴いての相談、電話などである。就学前相談でも連携をとっている。顔の見える関係を作り相談しやすいようにしている。</p> <p>年々放課後支援事業所が増えており、現在は60か所の登録がある。様々な事業所があり、年度初めに学校の活動や送迎ルールなどの説明会を行っている。教員向けには福祉のことを学習する研修会や基幹相談支援センターの話を行った。卒業生からの相談は進路担当が受け、関係機関につなぐようにしている。</p> <p>現在、対応が難しい案件が増えており児童相談所へつなぐこともある。よりよい支援を考えているが対応が難しくなっていると感じる。</p> <p>通学支援ボランティアの件で困っている現状がある。複数の市をまたぐ場合の対応が難しい。様々なサービスがあることを情報共有することが大切である。</p> <p>②令和3年度の進路状況について</p> <p>昨年度はコロナで施設見学ができず、情報が入りにくかったが、新規事業所がいくつか立ち上がり進路先が広がったことで一般就労、特例子会社、福祉事業所、在宅などの進路を決めてきた。春の卒業時に決まらなかった2名も現時点までで全員決まった。複数の事業所を利用する並行利用もある。これまで生活介護とB型の併用が難しかったが、本人の状況(アセスメント)を受けて並行利用者がいる。</p> <p>校内では、現在実習期間中ががんばっている。夏の施設見学が中止となり、現在冬に向けて改めて保護者見学会を準備中である。</p>		

③模擬選挙と意思決定支援について

18 歳成人で選挙が身近になった。県の通知で高等部全員模擬投票の対象となり実施した。その中で投票の仕方や意思表示の仕方を学習した。投票率は A 部門 92 パーセント、本校 B 部門 46 パーセント、分教室 98 パーセントであった。本物の記載台と投票箱を使った。本物の投票用紙の色を使うことで臨場感を高められた。意思決定で難しかったことは、立候補者のことを知らないから選べない、選択肢が多い、初めての人とのコミュニケーションが難しいことなどがあった。実際の投票の場面ではメモを使うこともできるなど代理投票の仕方を教員も勉強することができた。また表出の支援が難しいことを改めて思った。支援者とのコミュニケーションが大変で、いろいろな人と意思伝達ができるようになることが大切だと感じた。

次回の部会では、相談、支援からの情報を共有し学校が抱える課題を明らかにしていくことにしている。

(質問・意見)

(A さん) : 先ほどの報告で保護者の方からの相談支援があったとのことだが、質問内容、対応状況についてほかの保護者へ、支援通信などで共有化はされていますか。

→ (回答) 支援通信の方で、ひとつの例として靴の選び方など共有することがあった。保護者から寄せられた情報を発信することもあった。進路担当からもサービスなどについてのお知らせをしている。ensemble は校内教員向けに発信している。

(B さん) : 選挙の模擬は基本的人権で大事なこと。本人にとっての意思決定、内容理解、表出など重要なことが多い。今回の模擬選挙は結果が見えにくいことから、本人が理解しにくく高度な意思決定になっている。もっと身近で、簡単に、結果がわかりやすいことが必要である。結果の理解も含めて「意思決定支援」の完結を求めていけるとよいと思う。国連からの勧告もあったが、わかりやすい支援は必要である。特別支援が不要なのでなく、学校のありかたを考える必要がある。

→ (回答) 自己決定については、二者択一だけでなくどちらでもないなどもあることを話した。12 月に生徒会選挙があり、意思決定がもっとわかりやすくなると考えている。

(C さん) : 学校は登校してから下校まではブラックボックスになりがち。中に入って見えたことはよかった。校名変更により、校歌はどうなるか。

→ (回答) まだ、具体的には決まっていない。

(教頭) : 卒業生の保護者の方は学校名の変更で思うことはありますか。

(D さん) : 肢体不自由教育部門の 12 年間と知的障害教育部門の 3 年間とでは思いも違うと思う。私の子どもは卒業して 2 年たったが、学校への思いはあまりないかもしれない。「成人を祝う会」への呼びかけに、出席したいという方は少なかった。

(D さん) : 私のところも高等部からの入学で在学期間は短い。子どもの気持ちは、次のステップに移っている。親としても卒業の時点で次のステップに向けて盛り上げていることもある。

(E さん) : 校名変更ピンとこないが、「かまよう」と言えないことにさみしさを感じる。

(2) 福祉避難所運営部会報告（指導グループ長）

部会が行われた当日、学校全体が防災デーであった。午前中に HHUG と DIG の研修、午後は、防災ツアーを組み。発電機を実際に動かしたり、防災用グッズがある倉庫の場所などを確認したりした。また、放水訓練も行った。部会の委員の方には、HHUG の研修と一緒に参加していただいた。コロナ前は DIG や HHUG 研修に、地域の方も参加していただいていたが、コロナの影響で、実施していない。今年はクラス防災担当を含めて昨年よりはやや人数を増やして行った。

反省点がいくつかあった。

校内にはいくつか避難者を収容できる部屋があるが、事前に、どの部屋にどのような人を収容するかを決めておくことが必要であること。避難用にどのようなものが使えるのか把握することが必要であることなど。実際に避難所が立ち上がったら、すごく慌てるだろうなと思った。

HHUG の研修終了後に、感想やご意見をいただいた。福祉避難所について、鎌倉市とどう連携し具体化していくことが必要との意見をいただいた。

その後、市の担当者と話し合いができた。市から福祉避難所開設のガイドラインをいただいた。また、話し合いの中で、災害発生後どのように連絡がくるのか、学校はどう対応するのかのイメージができた。福祉避難所は市内に 6 か所あり、それぞれに担当が決まっているとのことだった。校舎内を実際に見ていただいた。また、来年 1 月に福祉避難所所長が集まる会議があり、そこに参加することになった。

(質問・意見)

(F さん)：福祉避難所が開設された時に、どのような方が利用するかまだ不安がある。

市としても担当者がすべて対応できるか不明である。風水害を超える大災害では現場での対応が必要である。防災士の集まりで話題になったことは、災害弱者、要支援者への対応。学校以外は老人福祉関係の施設で受け入れが困難になることもある。今、考えているのは一時的には避難所で受け、そこから福祉避難所へとの流れ。開設を 1 週間後から開設するなどの工夫が必要になってくる。まず人や物資を集めてから開設受け入れしないと難しい。災害ボランティアを受け入れる方法を定めることも大切。平時から訓練を繰り返すことが大切である。実際問題として住民との連携をとることに進まない部分がある。住民、ボランティア等に何をお願いするのかをはっきりさせることが大切である。現在、喫緊としてはペットの対応について課題となっている。近年、爬虫類などの多様なペットがおり、アレルギーなどもあり大変である。ペット避難所も考えとしてはあるがうまく回っていない部分がある。

開設の手順についてはきちんと市に伝えていくことが必要である。実際に災害時に人が入り始めたら收拾がつかなくなるので、どう人を入れるか、どうコントロールするかが見えていないのが現状。要支援者の判断もできない状況にあり。平時から要支援者を守る形を作る必要がある。

(G さん)：実際に高齢の母親を抱える身としての意見。認知症を抱えると震災など大きな災害があった際に小学校などの一時避難所に長い時間滞在すると本人は大変混乱するだろうと想像する。鎌倉養護学校の在校生やその保護者も学校に福祉避難所があるならそこへ行きたいと思うのが心情ではないか。福祉避難所の在り方は、鎌倉市だけではなく横浜市や藤沢市など県域にわたって検

討されるべき課題だと思う。

(Hさん)：保護者同士の話の中で、福祉避難所が高齢者の施設しかない。学校は遠い。ひとまず避難して、また動くというのは負担感が大きい。避難生活が長くなる場合、車中泊ができる駐車場を設けられないかなども考えられる。大勢が避難所に行くことは子供たちにとって難しい部分がある。あらかじめ避難を想定する必要があるだろうと意見がでていいる。関係各所と意見交換ができる
とよい。

(Iさん)：市の障害者の支援協議会で地域生活支援拠点の整備事業があり。緊急時の受け入れを優先してガイドラインを作っている。コーディネータを設置することが挙げられているが、相談支援事業所がそれを担っている。市は地域の実情、要配慮者の個別の特性の把握はできていないことが現状。福祉避難所をどう運営するかについてガイドラインを明確にすることが大切。他市の取り組みを参考にすることも考えてもよいのかと思う。今後の討議にあたり当事者のヒアリングができればよい。受け入れる人をどう振り分けるのか、手帳の有無なのか、何が必要なのか考えることが大切である。
福祉避難所運営部会の当日 HHUG を体験した。災害時のイメージをすることができた。あらためて意識を確認するのに防災研修ができたのは有効だった。

(Jさん)：個別避難計画相談の話聞くがどのようなものか。

(Kさん)：個別避難計画の作成については、計画の作成は社会福祉協議会、ケアマネジャーが中心になっている。現在はボランティアで行っているが対価を支払うことも必要と感じる。避難をしたい希望があっても避難に適しているかどうかを判断しないといけないと思う。現状としては避難に適さない場所や部分もある。避難した先が避難に適さない事例もあった。結果的には個人的につながっているところで対応したが風水害でもこの状況なので大規模災害で数週間避難生活を送ることになると災害弱者、高齢者、障害者について避難しなくてもよい自宅を考えることも大切である。避難すれば大丈夫ということにはならない。家族を守るために現状を知ることが大切である。避難所も十分ではないことを知っておくことが必要である。平時に問題点や課題をあげていくことや自分の家で自分を守れる視点も大事なことである。
避難場所（車中泊）は地域によってはできている。第二小学校地区は自治会が山の上の修道院をつかっている。海沿いの地区では行政が避難場所の指定をお願いしたが断られたこともあったが、地域住民でお願いしたら実現したこともある。住民同士で顔の見えるネットワークを作るとできることがある。

(Lさん)：神肢P連からの情報。ある養護学校からの情報で、東日本大震災の時、特別支援学校に通う児童生徒のご家庭では、実際、半壊した自宅及び車上生活を余儀なくされたそうです。そこで、当該特別支援学校では、車中泊体験などの防災イベントを自動車会社等 10 の企業団体を招いて行ったそうです。これについて、PTA 運営委員会でも報告し、その内容が全校配付される予定です。少しでも防災について保護者に考えてもらいたいと思っています。

3 令和4年度 学校評価中間報告について（副校長）
書面で報告することとし、意見を頂くことにした。

4 連絡事項

（1）通学支援事業について（指導グループ長）

医療ケア児のスクールバス等の通学支援事業が始まった。これまでスクールバスに乗れない医療ケアが必要な児童生徒がいたが、今回16名の対象児童生徒について対応してきた。希望を取った結果、8名の保護者から希望がでてきた。県で予算がつきスクールバスに同乗できる看護師がつき、水、木、金に乗れることになり、現在3名の児童生徒が7月から隔週でバスに乗ってきている。残りの5名については、今後介福祉車両で学校に通学する予定である。10月から（今週から）順番に福祉車両の利用が始まっている。訪問看護師の予定や、車両手配などの都合により週1回の実施になっている。1枠を5人でシェアすることでスタートした。実際には欠席やキャンセルなどもある。5人中3名はこれまで関係がある看護師だったのでスタートできたが、残りの2名は訪問看護師の手配がまだできていない。

（2）花と笑顔のプロジェクトについて（支援グループ長）

県の助成金を使った環境整備事業がありフラワーガーデンを作ることにした。地域の方や車いすでも楽しめるものを作る予定で、コミュニティスペースとしたいと考えた。企画がスムーズに進まなかったが、地域の方の協力を得ながら進めることができた。プール棟の横で川沿いからも見えるようにしたい。フラワーセンターから腐葉土などをいただくことになっている。高等部の実習で取組むことになっている。11月の鎌養祭でお披露目できるようにしたいと考えている。

（3）鎌倉市の情報について

①現在、鎌倉市社会福祉協議会は、マスコットキャラクターの選定をおこなっている。10月いっぱい福祉センターで応募作品を展示していて、展示を見られた方の投票でキャラクターのデザインを決めることになっている。学校から3点応募があり、大変うれしく思う。今後玉縄行政センターで10月27日・28日に展示と投票を行う予定である。

②玉縄地域福祉懇談会開催についてのご案内

（4）指導グループ長から

今週、PTA成人委員会で卒業生の保護者の方をお呼びし、お話をを行った。卒業後の生活や進路決定などの具体的な話を聞いた。

5 その他(感想等)

(Lさん)：これまでコロナウィルス感染症対策でできなかった行事も少しずつ再開できている。

(Mさん)：切れ目のない支援部会の報告ありがとうございました。登校支援の話題に私個人としてもひっかかっている部分でもある。なにか手だてがないかと考えているがなかなかないのが現状である。登校支援がうまくできずに不登校になる事例が他校でもあるのだと思う。県として対応できないだろうかも感じる。支援の集まりがあったら情報収集できるとよい。